

講義コード	515104802
講義名	保育実習指導II CD
(副題)	
開講責任部署	幼児教育科（短大）
講義開講時期	前期
基準単位数	1
時間	0.00
代表曜日	木曜日
代表時限	2 時限
科目分類名	専門科目
科目分野名	教科に関する科目
対象学部・年次	短期大学部・2年
必須/選択	選択

## 担当教員

職種	氏名	所属
専任教員	穴戸 良子	指定なし
専任教員	設楽 紗英子	指定なし
専任教員	長澤 順	指定なし
専任教員	村松 和彦	指定なし
専任教員	教務委員会（短大）	指定なし
非常勤教員	吉澤 麻衣	女子短期大学部

## 授業の概要

保育実習IIでは、保育実践力が求められる。そこで本科目は、多様な専門的観点から学びをサポートできるよう5名の教員によるオムニバス形式で展開する。授業は2本柱で構成されており、その一つは現場保育者による授業、もう一つは具体的な保育計画の立案・実践・省察・自己評価を行い、保育の実践力を高める学習内容となる。この2本柱からなる学習を通して、子どもの状態に応じた適切なかわりや保育の表現技術を生かした保育実践力を身に付ける。またその中で、保育士の専門性と職業倫理について理解を深め、自己の課題や目標を明確化する。

## 授業の到達目標及びテーマ

本科目は、保育実習IIの事前事後指導に位置づくものである。

本科目の到達目標は、以下のとおりである。

1. 保育所における実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に理解し説明できる。
2. これまでの実習経験や既習の教科目の内容やその関連性を踏まえ、保育を実践する。
3. 保育の観察、記録及び自己評価などを踏まえた保育の改善について、実践や事例を通して理解し説明できる。
4. 保育士の専門性と職業倫理について述べるができる。
5. 実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や今後の目標等を述べるができる。

## 授業計画表

回	担当教員	項目	内容	復習
	穴戸良			

第1回	子長澤順 設楽紗英子	実習説明会①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習の意義と目的</li> <li>・実習関連書類の作成</li> <li>・オリエンテーションについて</li> </ul>	
第2回	吉澤麻衣	現場保育者による授業 ①：保育所、保育士の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所を含む乳幼児施設について</li> <li>・保育士の業務内容</li> <li>・安全管理、環境整備</li> <li>・衛生管理、感染症対策</li> <li>・本園における新型コロナウイルス感染症対策の状況</li> <li>・新型コロナウイルスの罹患者が発生した際の運営状況、及び保育再開後の様子</li> </ul>	
第3回	吉澤麻衣	現場保育者による授業 ②：乳児保育について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期の発達理解と保育の進め方</li> <li>・幼児期における言葉遊びの具体的展開</li> </ul>	
第4回	吉澤麻衣	現場保育者による授業 ③：発達の繋がりある保育展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育教材の具体的展開</li> <li>・絵本や紙芝居の選定、読み聞かせポイント</li> <li>・保育所における計画及び、その他の指導計画案</li> </ul>	★課題提示・・・主活動の日案（製作以外）締め切りは、6月末日の予定
第5回	吉澤麻衣	現場保育者による授業 ④：保育教材の活用について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達理解と保育の進め方</li> <li>・赤ちゃん人形を使用し、赤ちゃんマッサージ、着脱介助、おんぶ紐の使い方の実技指導</li> </ul>	
第6回	吉澤麻衣	現場保育者による授業 ⑤：保育所の保育計画、保育所実習に向けて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児の基本的な生活習慣の自立に繋がる活動展開</li> <li>・健やかな発達に繋がる活動とは</li> <li>・箸トレーニングの進め方実技</li> <li>・課題解説</li> <li>・実習の心構え</li> </ul>	
第7回	穴戸良子 設楽紗英子 長澤順	実習説明会②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習に際しての留意事項</li> <li>・子どもの人権と最善の利益の考慮</li> <li>・プライバシーの保護と守秘義務</li> </ul>	
第8回	長澤順	保育の計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の知識・技術を生かした音楽活動の計画（対象年齢：0～3歳児）</li> </ul>	
	穴			

第9回	戸 良 子 設 楽 紗 英 子 長 澤 順 村 松 和 彦	保育の実践	・ 模擬保育～0～3歳児を対象に 計画した保育の実践	
第10回	設 楽 紗 英 子	保育の省察（1）	・ 子どもの発達過程の理解、既 習科目の学びの振り返り	
第11回	設 楽 紗 英 子	保育の省察（2）	・ 子どもの状態に応じた適切な 関わり	
第12回	村 松 和 彦	保育の省察（3）	・ 保育の観察、記録に基づく子 ども理解と保護者理解	
第13回	村 松 和 彦	保育の省察（4）	・ 保護者・家庭への支援として 造形技術を生かした「おたよ り」の作成	
第14回	穴 戸 良 子	実践全体の振り返り	・ 保育の観察、記録、自己評価 に基づく保育の改善	
第15回	穴 戸 良 子	実習の総括と評価	・ 自己の課題の明確化	

### 授業時間外の学修

予習として、授業で事前配布する資料の該当箇所の事前読了、演習課題の準備を進めること。各回の予習には、30分かかると予想される。  
また、復習として、授業内容及び配布した資料・板書事項の見直しをすること。各回の復習には15分かかると想定される。

### 実務経験の有無

実務経験者が指導の一部に関わる 例：行政政策担当者・民間企業・医師等勤務経験者による  
講義など

### ディプロマポリシーとの関連

--	--	--	--

①幼児教育者観	②知識・技能	③実践力と実務能力	④人間性と協調性
◎	◎	◎	○

## ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
実習の理解と説明	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な目標を持って実習に臨もうとしていることが認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、実習に関する準備が整っていることが認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、課題に関して個別に助言・新たな資料提供等の支援を行っている
保育の理解と実践	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な保育実践力が身につけていることが認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、実習に対応可能な保育実践力が身につけていることが認められる	授業内容をほぼ70%程度理解しており、保育実践力がやや身につけていることが認められる	授業内容の理解は65%以下と判断できるため、助言・新たな資料提供等の支援を行っている
保育の記録と説明	授業内容を100%理解しており、保育に関する計画・記録作成において、実情に合わせて臨機応変に対応する力が認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、保育に関する計画・記録作成において、他者に伝える表現力が身につけていることが認められる	授業内容をほぼ70%程度理解しており、保育に関する計画・記録作成において、他者に伝える表現力がやや身につけていることが認められる	授業内容の理解は65%以下と判断できるため、助言・新たな資料提供等の支援を行っている
職務理解	授業内容を100%理解しており、臨機応変に周囲と協働しながら保育を進めるリーダーシップが認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、周囲と協力して保育を進める態度が認められる	授業内容をほぼ70%程度理解しており、周囲と協力しながら保育を進める態度がやや認められる	授業内容の理解は65%以下と判断できるため、助言・新たな資料提供等の支援を行っている
自己課題の発見	授業内容を100%理解しており、それを踏まえた自己課題も明確である	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自己課題の設定も可能である	授業内容をほぼ70%程度理解しており、自分なりに自己課題を設定する姿勢が認められる	授業内容の理解は65%以下と判断できるため、助言・新たな資料提供等の支援を行っている

## 成績評価法 (表形式)

	評価基準	備考

定期試験		
小テスト等		
成果発表	40%	製作課題・模擬保育の内容を評価する（担当：長澤、村松）
授業への貢献度		
レポート	40%	授業内容全般の理解度を評価する（担当：設楽、吉澤）
その他	20%	準備学習（予習・復習）の実施状況を評価する（担当：宍戸）

### 課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
掲示板等に正解と講評を掲載する 授業の中で解説、講評する	掲示板等に正解と講評を掲載する 授業の中で解説、講評する	掲示板等に正解と講評を掲載する 授業の中で解説、講評する

### ICTを活用した双方向型授業の内容

<p>クリッカー、アンケート、小テスト等 ビデオ会議システム チャット 掲示板の活用 メール等の活用</p>
--

### アクティブラーニングの割合

総授業時間数の60～100%程度のアクティブラーニングである
--------------------------------

### アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
<p>発問の吟味・精選 グループワークのディスカッションやディベート（議論の場と時間） プレゼンテーション コメントシートの活用 小テストや授業内レポートの活用 調べ学習・調査の活用</p>	フィールドワーク	<p>授業前レポート（予習） 授業後レポート</p>

### 教科書

教科書は指定しないが、適宜該当する資料を配布し授業を進める。

### 参考書

- 『保護者支援』永野典詞（風鳴社 2014）  
『遊びの指導 乳・幼児編』幼少年教育研究所（同文書院 2009）  
『保育所保育指針〈平成29年告示〉』（フーベル館 2017）  
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈平成29年告示〉』（フーベル館 2017）

### SDGsとの関連

<p>3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに</p>
---

**特記事項等****研究室（訪問先等）**

宍戸：209研究室（出講日は火・水・木・金）

長澤：227研究室（出講日は水・木・金）

設楽：226研究室（出講日は月・水・木）

村松：222研究室（出講日は月・火・水・木・金）

直接研究室を訪ねてください。

吉澤：研究室はありませんので、授業日に直接お声かけ下さい。

**電話番号**

028-667-7111（代）

**授業用E-mail**

[shishido@sakushin-u.ac.jp](mailto:shishido@sakushin-u.ac.jp)